

## 「ノウフク」で農業がかわる！プロジェクト

朝長圭子  
大村市立図書館

### 1 はじめに

ミライ o n 図書館は、長崎県立長崎図書館と大村市立図書館の一体型図書館として、令和元年（2019）10月5日開館した。ミライ o n 図書館では課題解決支援サービスとして、ビジネス・産業、医療・健康、子育て、行政支援を主として課題解決支援サービスを行っていて、県職員は主に県の関連機関と、市職員は大村市の関連機関と連携し、事業を行っている。

大村市としては、大村市医師会、大村市産業支援センター、市役所の各部署と連携し、展示、講演会、相談会などを行っている。その中で、農業支援が手つかずになっている。

様々な機関と連携する中で、大村市障がい者福祉事業ネットワークの方と出会い、農福連携のことを知った。農福連携とは、障がい者が農業分野で活躍することを通じ、地震や生きがいを持って社会参画を実現していく取組とされている。農福連携に取り組むことで障がい者の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性も期待されている。

若手農業者と一部の福祉事業者とで連携が始まっているが、市民の認知度は低く、周知が課題となっているとのことだった。図書館としても、まだ着手できていない農業支援の一環として連携事業ができるのではないかと考えたが、実現には、農林水産振興課、障がい福祉課、農業者、福祉事業者の連携が必要になる。

この機会に、ビジネス支援の視点から、図書館ができる農業支援を考えてみたい。

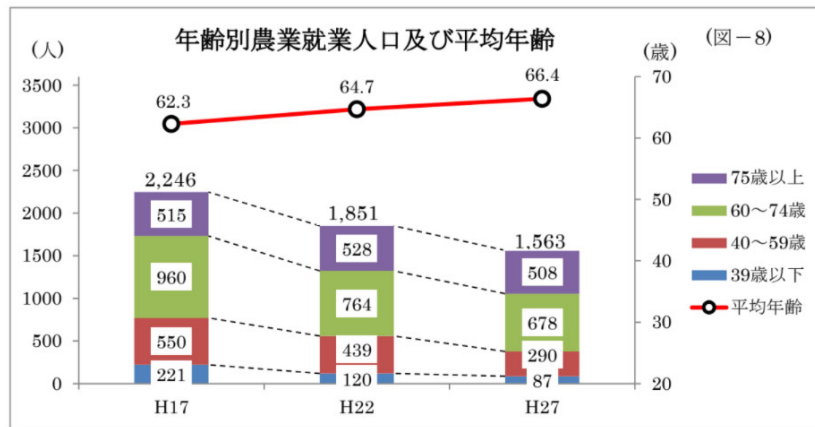
### 2 大村市の現状

まず、大村市の農業、障がい者の就労、図書館の現状を整理する。

#### （1）農業

『大村市農業基本計画』を見ると、大村市の農業の現状は、販売農家の農業就業者の平均年齢が、平成 17 年（2005）の 62.3 歳から平成 27 年（2015）の 66.4 歳と高齢化が進んでいる。特に、39 歳以下を見ると 10 年間に 130 人以上減少し、平成 27 年には 87 人となっていて、若者の離農が目立っている。

また、新規就農者及び離農者の平成 17 年（2005）から平成 27 年（2015）までの年間の累計は、新規就農者が 57 名であるのに対し、販売農家の世帯員数の減少は 1,766 名となっていて、農業者が全体的に減少していることがわかる。



資料:農林業センサス、大村市データ

平成 29 年（2017）9 月に農業者を対象に実施された調査では、「大村市の農業の課題・弱み」で「高齢化や後継者不足による離農が進み、担い手が不足している」という回答が 35.9%を占め、最も多いものになっている。

また、「行政（国・県・市）に期待している役割」では、「後継者の育成」13.4%、「担い手の確保」12.7%となっていて、人材確保が求められている。「農業イベント等による PR の実施」も 2.7%ではあるが、行政に期待している役割として挙がっている。そのほかにも「大村市の今後の農業への意見」として、「交流の場を多く作り、経営の活性化を図る必要がある。」「週末にボランティアを募る等、市民が農業に関心をもつ機会を創出してほしい。」などがあった。

計画の中で、基本施策「新規就農者の確保」の一つとして、農業と福祉を結びつけるなど、農福連携を推進することがうたわれている。

## （2）障がい者の就労

『大村市障害福祉計画』によると、一般就労が困難な人が利用する就労支援施設における賃金（工賃）は、経済的自立という視点から十分ではなく、就労継続及び定着支援の促進に努めるなど、障がい者の経済的自立に向けて支援を図る必要があるとされている。

今後の方向性として、障がい者の経済的自立及び不足する労働力の確保のため、障がい者が農業の担い手となる農福連携事業に取り組むこととしている。具体的な内容として、農業等他業種と福祉部門の連携を進めるため、障がい者雇用に対する理解・協力のための啓発を行うこと、農業部門と福祉部門を結びつけるためのマッチン体制を構築するとともに事業者や関係機関による支援ネットワークづくりを進め、農産物マルシェの

開催などを推進するとしている。アンケートでは、充実させる必要があると思う施策については、分野別施策の回答数平均で見ると、「雇用・就業」分野の施策が最も多く、ついで「情報・コミュニケーション」分野が多くなっている。

### (3) 図書館

ミライオン図書館では、先に述べた4つのテーマで課題解決支援サービスを行っている。その中でビジネス・産業支援サービスとして、ビジネス支援コーナーの設置や関連図書の展示、大村市商工振興課や大村市産業支援センターと連携した講演会や経営相談会を開催している。

しかし、農業分野においては、新規就農などを含めた起業や経営支援ができておらず、関係機関との連携もまだできていない。福祉分野についても、大村市地域包括支援センターとは連携事業を行っているが、障がい福祉課とは連携できていない現状があり、農業分野、福祉分野ともに関係づくりから行っていく必要がある。

## 3 図書館をハブとした連携事業

このように、現在の大村市では、若手農業者の就農定着と障がい者の就業に課題があり、この2つの課題の解決策の1つとして、障がい者が農業分野で新たな働き手として活躍できる「農福連携」の促進がそれぞれの計画で触れられている。農福連携については、大村市障がい者施設ネットワーク協議会などが周知活動を行っているが、まだまだ一般的に認知されるまでには至っていない。

農業支援に取り組みたい私たち図書館としては、老若男女問わず様々な年代の市民が利用する図書館の集客力を活かし、イベント、講演会などの開催や、関連図書の企画展示などで、周知活動の支援ができるのではないかと考えた。図書館がハブとなり、農林水産振興課、障がい福祉課、関係団体が連携した周知活動などについて提案してみたい。

連携事業は、以下の3つのテーマに沿って1年から2年かけて行う。

- (1) 大村市の農業と農福連携を知る
- (2) 大村市で農福連携を実践する
- (3) 大村市の農産物と農福連携の成果を共有する

具体的な取り組み等は、以下のように考える。

- (1) 大村市の農業と農福連携を知る

#### ア) 目的

市民には大村市の農業について知ってもらい、農業者、福祉事業者には、障がい者の就農について知ってもらう。

#### イ) 効果

農業と障がい者の仕事について、市民、農業者、福祉事業者の理解が深まる。

ウ) 具体的な事業案

農林水産振興課や障がい福祉課と連携し、市民向けの農産物即売会や大村市での就農に関する説明会の開催や農福連携に関する講演会を開催する。図書館は、それぞれのイベントの運営支援や、講演会などでブックトーク形式による関連図書の紹介や、会場内で展示、貸出を行う。

(2) 大村市で農福連携を実践する

ア) 目的

農福連携事業をはじめる機会を作る。

イ) 効果

具体的な機会作ること、実際に農福連携の新事業の起ち上げが期待される。

ウ) 具体的な事業案

農林水産振興課、障がい福祉課、大村市障がい者施設ネットワーク協議会と連携し、農業者と福祉施設事業者のマッチング交流会を行う。図書館では、大村市産業支援センターによる相談会を定期的実施したり、関連図書やデータベースを活用した情報提供を行うことにより、新事業のサポートを行う。

(3) 大村市の農産物と農福連携の成果を共有する

ア) 目的

農福連携事業の成果を周知する。

イ) 効果

農産物などが周知されることで、事業の安定化が期待される。

ウ) 具体的な事業案

農福連携でできた農作物や加工食品を販売するマルシェを開催したり、実践事業者の成果発表の開催する。

講演会や相談会、マッチング交流会などの会場を図書館とすることで、講座が開催されている様子や関連図書の展示が不特定多数の人の目に入り、農福連携や、それによる農作物や加工食品ができる過程を知ってもらうことができ、関係者や参加者だけでなく、より多くの人に興味関心を持ってもらいやすくなると思う。

農業者や福祉事業者にとっても、関係者以外の人たちとふれあい情報発信をすることで、活動の励みになったり、新たな人脈づくりにもなるのではないだろうか。

また図書館と深く関わってもらうことによって、あまり図書館を利用していなかった農業者や福祉事業者などに、専門書やデータベースなど、役に立つ情報が図書館にたくさんあることを知ってもらう機会にもなる。

このように、農業、福祉に関係する様々な人たちと連携し、図書館という特性を活かしながら、人と人をつなぐ、人と情報をつなぐ事業を年間を通して実施し、農福連携や大村市の農業、農産物の周知に関する事業を行ってみたい。

#### 4 おわりに

今回、ビジネス・ライブラリアン講習会に参加して、初のウェブ開催ということだったが、参加者とも講師陣ともとてもよいコミュニケーションがとれたように感じた。グループワークでは、それぞれの企画案に刺激を受けたし、意見交換もとても活発だったので、様々な着眼点や意見を聞くことができ、とても勉強になった。

グループワークでのやり取りは、ビジネス支援サービスで一番大切な「人とのつながり」をまさに体感できたと思う。思い入れのある事業案であっても、一人で考えているのは偏ったものになるし、なにより実現していくには多くの人との連携、協力が必要になる。同じ目標に向けて意見をぶつけることは、とても楽しく前向きなことだと実感できたことは、とても有益なことだった。

ただ、職場や連携事業を進める上では、同じ目標、ビジョンを共有するまでに時間がかかるのだらうと思う。今回の体験を大切に、丁寧な関係づくりをして、地域の活性化につながるようなビジネス支援サービスを行っていきたい。

#### 【関連資料】

『大村市農業基本計画』平成30年3月

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/nougyouseisaku/machi/norinsuisan/sesaku/documents/nougyoukijonkeikakuzentai.pdf>

『大村市障害者基本計画・第5期障害福祉計画』平成30年3月

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/seikatsu/shise/shokai/shisaku/kekaku/documents/syougaikeikaku.pdf>

ノウフクWEB

<https://noufuku.jp/>

農福連携の推進（農林水産省ホームページ）

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kourei.html>

紫波町図書館

<http://lib.town.shiwa.iwate.jp/>

小山市立図書館

<https://library.city.oyama.tochigi.jp/>